



OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO
2025




GOLD PARTNER

©Expo 2025

第28期 株主通信

2024年4月1日～2025年3月31日

 **ジャパンマテリアル株式会社**

証券コード：6055



代表取締役社長 田中久男

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、当社グループ第28期(2024年4月1日から2025年3月31日まで)事業年度が終了いたしましたので、ここに営業の概況についてご報告申し上げます。

おかげさまで、第28期の連結売上高は526億78百万円、営業利益は111億88百万円となりました。これもひとえに株主の皆様をはじめとするステークホルダーの皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

最先端技術を有する半導体・液晶工場を支える技術者集団として、世界に誇る半導体・液晶の国際競争力向上に向けてこれまで以上にお役に立てる存在になりたいと思っております。

皆様のご期待に沿えるよう、これからも邁進してまいります。

企業理念

技術を磨き 産業を支え 未来を拓く

経営理念

・安全最優先

いつ、いかなるときも安全第一。
高いプロ意識で産業を支えます。

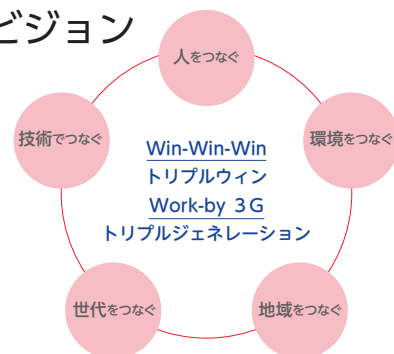
・Win-Win-Win
(トリプルウィン)

先進技術と誠実な仕事で、顧客の事業に貢献します。
取引先や地域と共生し、共に繁栄する関係を築きます。
学びと成長を支援し、社員一人ひとりの強みを伸ばします。

・未来を拓く

事業を通じ、人を育て、環境を守り、豊かで公正な社会を目指します。

経営ビジョン



ジャパンマテリアルは、お客様・お取引先と地域の皆様・社員の3者に利益をもたらす「Win-Win-Win」、18歳~70歳代の3世代が働ける「Work-by 3G」を掲げ、更なる成長を追求していきます。

売上高

526億78百万円

前年同期比8.4%増



営業利益

111億88百万円

前年同期比44.2%増



経常利益

113億40百万円

前年同期比37.8%増



親会社株主に帰属する当期純利益

78億72百万円

前年同期比38.6%増



- イニシャル部門は、主要顧客である半導体工場の設備投資は継続されたものの減速した影響を受け売上高は減少したが、材料価格の高騰が落ち着いたことによる原価率の改善等により利益は増加
- オペレーション部門は、主要顧客であるNAND型フラッシュメモリ工場の稼働率改善により売上高、利益ともに増加

名古屋証券取引所主催 「株式投資ウインターセミナー2024」に出展

2024年11月26日(火)、愛知県名古屋市のナディアパークにて開催された名古屋証券取引所主催の「株式投資ウインターセミナー2024」に出展いたしました。本セミナーは東海地区在住の個人投資家を対象に、上場企業による企業説明会と講師による株式講演会の二部構成にて開催されています。

当日は約300名の個人投資家がお来場され、当社も社長田中より事業内容や直近の業績などをお伝えし、個人投資家の皆様からはたくさんのご質問をいただきました。

今後も投資家の皆様のご期待に沿えるよう、更なる企業価値の向上を目指した事業運営に尽力してまいります。





当期の業績についてお聞かせください。

当社グループのエレクトロニクス関連事業において、顧客の設備投資に伴い発生するイニシャル部門は、主要顧客である半導体工場における設備投資の減速などの影響を受け低調に推移しました。一方で、生産活動に伴い発生するオペレーション部門は、主要顧客であるNAND型フラッシュメモリ工場の稼働率改善により、特殊ガス販売管理業務や半導体製造装置メンテナンスを中心に好調に推移しました。

グラフィックスソリューション事業においては、デジタルサイン向け製品や放送業界向け製品を中心に好調に推移しました。

太陽光発電事業では、三重県内で3か所の太陽光発電所が稼働しております。

業績ハイライト

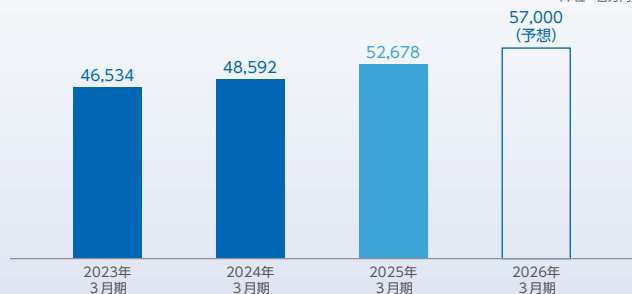
売上高

526億78百万円

前年同期比
8.4%増



(単位：百万円)



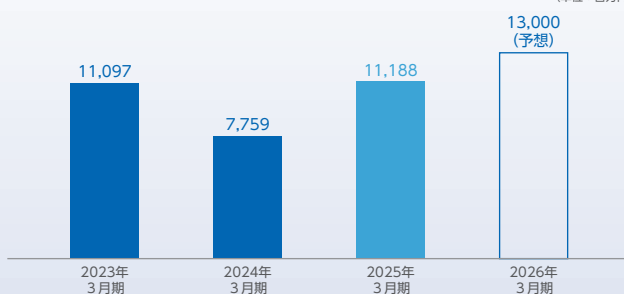
営業利益

111億88百万円

前年同期比
44.2%増



(単位：百万円)



※2026年3月期の予想は2025年5月13日現在のものです。

次期の見通しについてお聞かせください。

今後におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善が進む中、緩やかな回復基調が継続されるものと思われます。一方で、資源・原材料価格の高止まりや国内物価上昇に加え、米国の関税政策動向など、引き続き不透明な状況で推移すると予測されます。

このような状況の中、生成AI関連を中心とした需要が堅調に推移するとともに、半導体の在庫調整が更に進み価格の上昇が期待されることから、半導体需給の緩みは徐々に改善していくことが想定されます。

エレクトロニクス関連事業におきましては、オペレーション部門では、当社グループ内において技術者を育成し人材を確保することで事業領域を拡大し、当社グループの強みであります「トータルファシリティマネジメント (TFM)」を活かして他社との差別化を図り、お客様の期待以上の価値を提供することで安定収益基盤の拡大を図ってまいります。また、イニシャル部門では、主要

顧客における設備投資が実施されることが見込まれるため、積極的な営業活動を展開することで確実に受注に繋げてまいります。

一方、グラフィックスソリューション事業におきましては、デジタルサイネージ分野では商品のコンテンツ制作からシステム構築のトータルソリューションの提供を拡大してまいります。さらに非接触インタラクティブサイネージなどのデジタルサイネージ向け製品や、ビデオプロセッサなどのグラフィックス製品を中心に積極的な営業活動を展開することで販売拡大を図ってまいります。

今後も安全最優先の経営理念の下、持続可能な社会発展に貢献し、一層成長できるようステークホルダーの皆様との連携を深め、SDGsの視点に立った環境、社会、ガバナンスへの取り組みを強化してまいります。

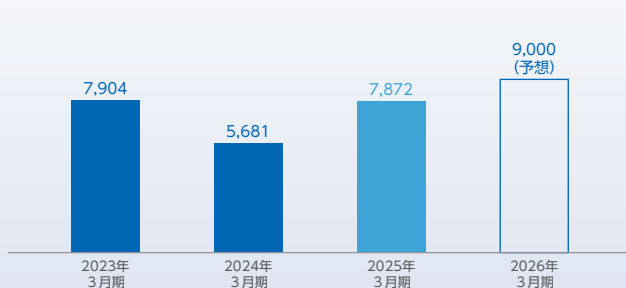
親会社株主に帰属する当期純利益

78億72百万円

前年同期比
38.6%増



(単位：百万円)



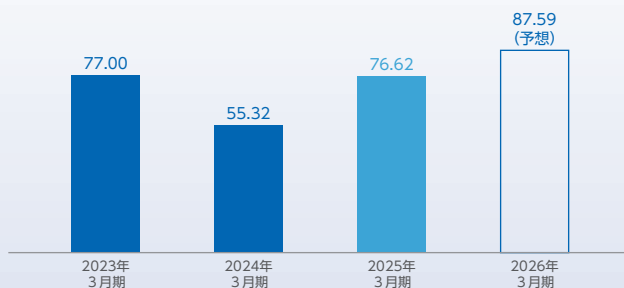
1株当たり当期純利益

76円62銭

前年同期比
38.5%増



(単位：円)



事業紹介

Business Outline

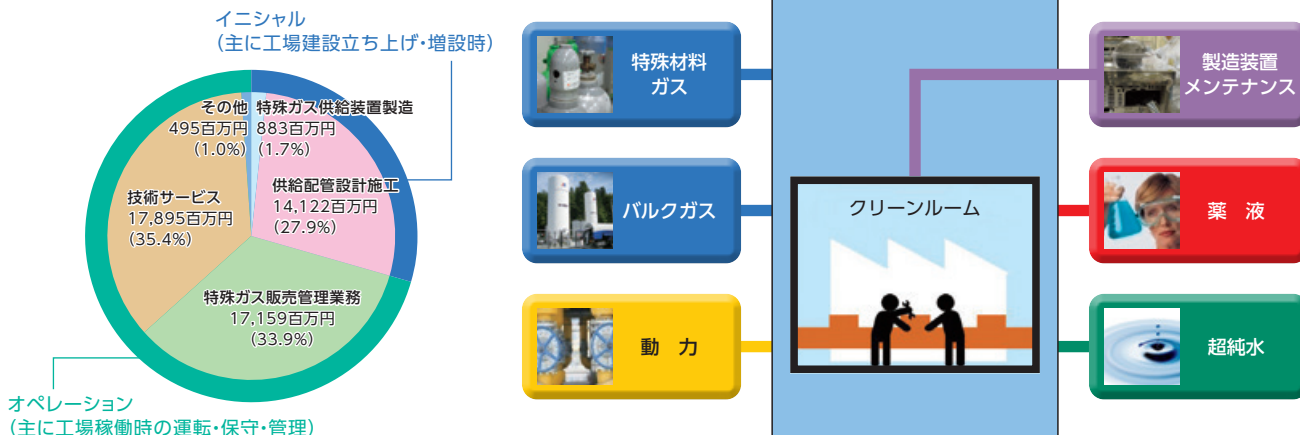
エレクトロニクス関連事業

事業内容

半導体・液晶等の製造工程で不可欠な特殊ガス、超純水、薬液等に関連するインフラ事業、動力・空調等を含めたライフライン管理を一括して請負うトータルファシリティマネジメントを中心に事業展開しております。さらに顧客工場の中心部に関わる半導体製造装置の保守・メンテナンス、セカンドパーツの製造・販売等の技術サービスを提供しております。



エレクトロニクス関連事業 内訳



北海道千歳市に千歳事業所を開設

2024年12月1日、当社は北海道千歳市に千歳事業所を開設しました。同市に位置するRapidus株式会社の半導体工場向けにサポート拠点の事業所を開設し、主に半導体生産工程で使われる特殊ガス配管の設計や組み立てのほか、半導体製造設備の配管や保守などを行っています。

引き続き、お客様の要望に迅速に対応する顧客密着型技術サービスの提供および円滑な人材確保に努め、お客様へのサポート体制を充実させてまいります。

◆千歳事業所概要

所在地:北海道千歳市流通3丁目3-26

敷地面積:1,990.41㎡

延床面積:364.36㎡(倉庫、事務所)



グラフィックスソリューション事業



デジタルサイネージソリューション

サイネージプレーヤーやクラウド型ネットワークソリューション、マルチディスプレイ、マルチプロジェクションシステム等、幅広い製品・サービスをご提供しています。豊富な導入実績とノウハウにより機器選定からシステム構築・コンテンツ制作、ご導入後のサポートまで行っています。

店舗や美術館・博物館、交通機関、ライブイベント、金融機関、教育機関、医療機関等、幅広い分野でご活用いただいています。

映像配信・ブロードキャストソリューション

放送用3Dキャラクタージェネレーターのご提供のほか、ストリーミング配信技術をはじめとするIPネットワークを活用した製品群により、遠隔地への映像配信や伝送のご要望にお応えしています。テレビ局・オフィス・病院・学校等、幅広い機関で多数ご採用いただいています。

3Dビューアの開発・販売

製造業向けに3Dデータの有効活用を促進するソフトウェアの開発・販売を行っています。安価で使い易さにこだわっています。

TAA準拠デジタルセキュリティソリューション 米国IP GARD社製品の取り扱いを開始

当社は米国 ラスベガスに本社をおくIP GARD(アイピー・ガード)社の日本総代理店となり、グラフィックスソリューション事業部にて製品の取り扱いを開始しました。

IP GARD社は、最先端のデジタルセキュリティソリューションに特化した製品の開発・製造を米国国内にて行っており、サイバーセキュリティ対策が進む米国の貿易協定法に基づく規定TAA(Trade Agreements Act)に準拠したセキュリティ製品を提供するイノベーターです。

KVMスイッチ(切替器)、ビデオウォール、エクステンダー、光ファイバー技術製品など、お客様それぞれのニーズに合わせた各種ソリューションを提供し、金融、防衛をはじめ幅広い市場において高く評価されています。

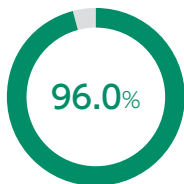


事業概況

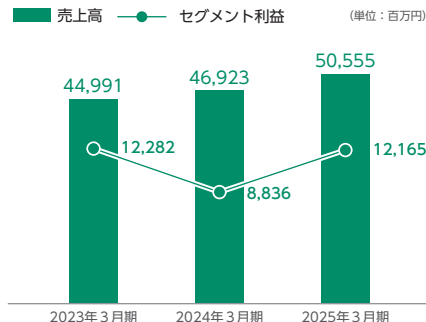
Segment Overview

エレクトロニクス関連事業

事業別売上高比率



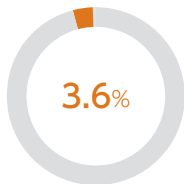
売上高	505億55百万円 (前年同期比 7.7% 増)
セグメント利益	121億65百万円 (前年同期比 37.7% 増)



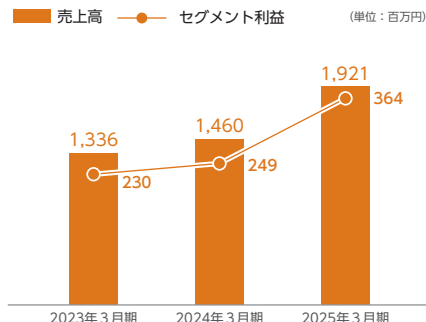
NAND型フラッシュメモリ工場の稼働率が改善、材料価格が落ち着き原価率が改善

グラフィックスソリューション事業

事業別売上高比率



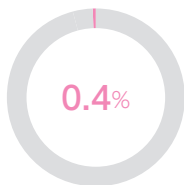
売上高	19億21百万円 (前年同期比 31.6% 増)
セグメント利益	3億64百万円 (前年同期比 46.2% 増)



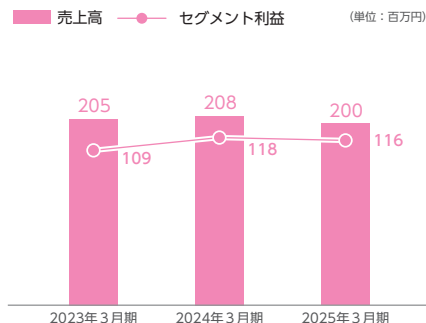
デジタルサイネージ向け製品やビデオプロセッサなどが好調

太陽光発電事業

事業別売上高比率



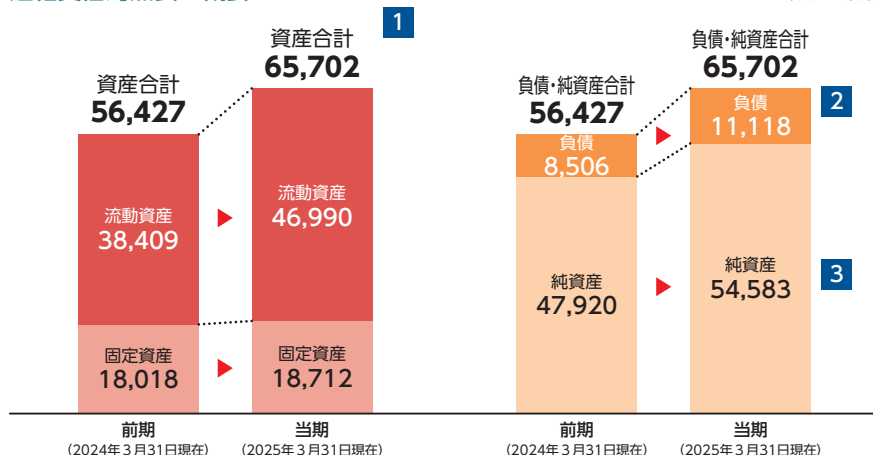
売上高	2億00百万円 (前年同期比 3.4% 減)
セグメント利益	1億16百万円 (前年同期比 2.5% 減)



三重県内で3か所の太陽光発電所が稼働

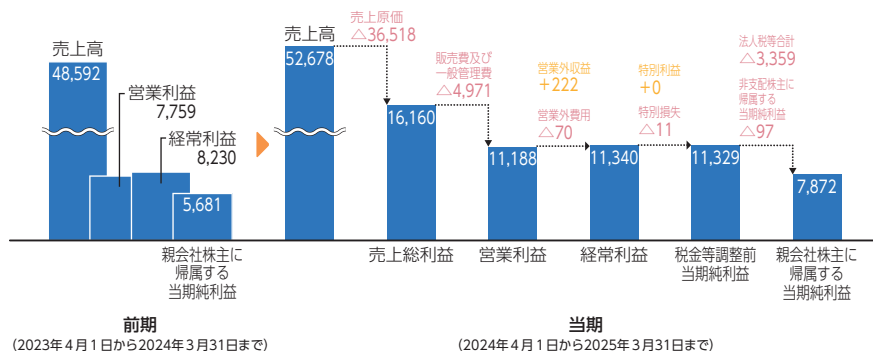
連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



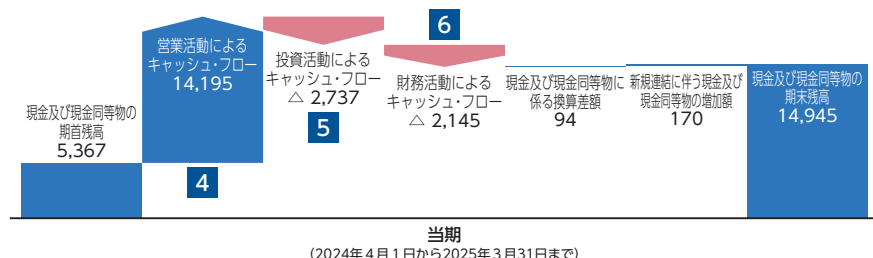
連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



ポイント

1 資産合計

資産合計は、92億75百万円増加し、65億702百万円となりました。主に現金及び預金、建物及び構築物が増加しました。

2 負債合計

負債合計は、26億12百万円増加し、111億18百万円となりました。主に支払手形及び買掛金、未払法人税等、未払金が増加しました。

3 純資産合計

純資産合計は、66億63百万円増加し、545億83百万円となりました。利益剰余金が増加しました。

4 営業活動によるキャッシュ・フロー

収入の主な内訳は、税金等調整前当期純利益113億29百万円、棚卸資産の減少14億43百万円、減価償却費11億50百万円、仕入債務の増加9億94百万円、前渡金の減少9億88百万円、リース債権及びリース投資資産の減少4億64百万円であり、支出の主な内訳は、法人税等の支払額25億18百万円、売上債権の増加7億28百万円です。

5 投資活動によるキャッシュ・フロー

収入の主な内訳は、定期預金の払戻による収入17億17百万円であり、支出の主な内訳は、定期預金の預入による支出22億55百万円、有形固定資産の取得による支出21億26百万円です。

6 財務活動によるキャッシュ・フロー

支出の主な内訳は、配当金の支払額20億54百万円です。

会社情報

Corporate Data

会社概要 (2025年3月31日現在)

社 名：ジャパンマテリアル株式会社
 (英文社名 JAPAN MATERIAL Co.,Ltd.)
 設立年月日：1997年4月28日
 資本金：13億1,781万5,250円
 上場市場：東証プライム市場、名証プレミアム市場
 代表者：代表取締役社長 田中久男
 従業員数：(連結)1,762名、(単体)477名 ※契約社員及びパートタイマー社員含む
 本店所在地：三重県三重郡菟野町永井3098番22

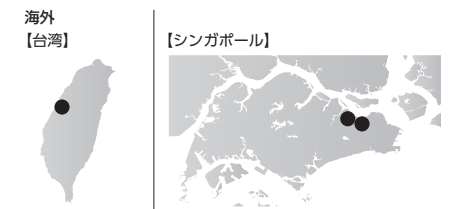
関係会社 (連結・2025年3月31日現在)

名称	住所	資本金 (単位:百万円)	主要な事業の内容
株式会社東和商工	三重県四日市市	40	エレクトロニクス関連事業
株式会社JMテック	三重県三重郡菟野町	30	エレクトロニクス関連事業
株式会社クスノキケミコ	三重県四日市市	30	エレクトロニクス関連事業
株式会社JMエンジニアリングサービス	三重県三重郡菟野町	310	エレクトロニクス関連事業
株式会社PEK	大阪府堺市	20	エレクトロニクス関連事業
株式会社シーセット	東京都千代田区	19	グラフィックスソリューション事業
株式会社バック・ステージ	東京都中央区	5	グラフィックスソリューション事業
茂泰利科技股份有限公司	台湾	NTD 110,000千	エレクトロニクス関連事業
ALDON TECHNOLOGIES SERVICES PTE LTD	シンガポール	SGD 340千	エレクトロニクス関連事業
ADCT TECHNOLOGIES PTE LTD	シンガポール	SGD 200千	エレクトロニクス関連事業
GBS (SINGAPORE) PTE. LTD.	シンガポール	SGD 380千	エレクトロニクス関連事業

関係会社 (非連結・2025年3月31日現在)

名称	住所	資本金 (単位:百万円)	主要な事業の内容
株式会社WiL	三重県三重郡菟野町	40	エレクトロニクス関連事業

グループネットワーク



役員 (2025年6月25日現在)

代表取締役社長 田中 久男
 専務取締役執行役員 田中 宏典
 常務取締役上席常務執行役員 甲斐 哲郎
 取締役常務執行役員 長谷 圭祐
 取締役常務執行役員 田村 安
 取締役常務執行役員 田中 智和
 取締役執行役員 坂口 好則
 取締役執行役員 矢内 信晴
 社外取締役 大島 次郎
 社外取締役 杉山 賢一
 社外取締役 沼沢 禎寛
 社外取締役 松原 幸男
 取締役(常勤監査等委員) 喜多 照幸
 社外取締役(監査等委員) 今枝 剛
 社外取締役(監査等委員) 高橋 裕子
 執行役員 北川 浩二
 執行役員 城戸 勝喜
 執行役員 稲見 鷹也

株式情報

Stock Information

株式の状況(2025年3月31日現在)

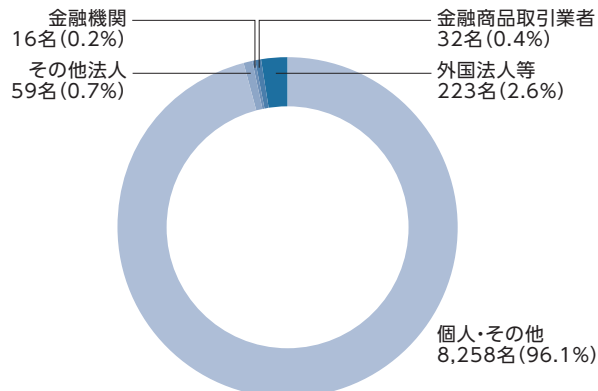
発行可能株式総数	324,000,000株
発行済株式の総数	102,755,080株(自己株式2,394,440株を除く)
単元株式数	100株
株主数	8,589名

大株主の状況(2025年3月31日現在)

株主名	持株数	持株比率
	株	%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	11,654,300	11.3
田中 久男	10,525,100	10.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,391,900	10.1
田中 智和	8,805,700	8.6
株式会社HT	7,300,000	7.1
T&T株式会社	5,300,000	5.2
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505025	2,637,300	2.6
喜多 照幸	2,525,260	2.5
公益財団法人ジャパンマテリアル国際奨学財団	2,200,000	2.1
株式会社百五銀行	2,160,000	2.1

(注)持株比率は発行済株式総数から自己株式数(2,394,440株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



IRサイトのご案内

IR情報の詳細につきましては、当社IRサイトをご覧ください。

<https://www.j-materials.jp/ir/>

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

**配当金受領
株主確定日** 3月31日(期末配当)

定時株主総会 毎事業年度末日の翌日から3か月以内

**株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関** 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒183-0044
東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711(通話料無料)

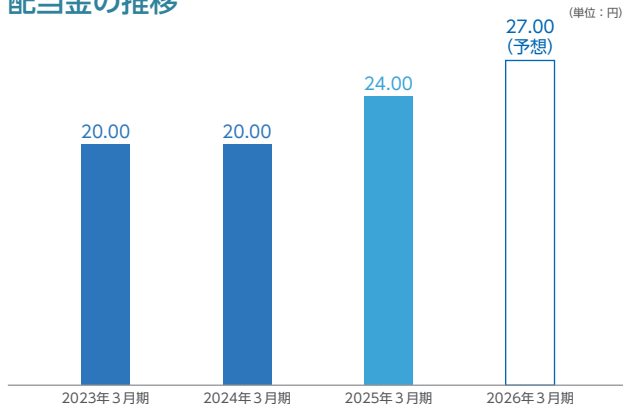
公告掲載方法 当社の公告は電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL <https://www.j-materials.jp/>

証券コード 6055

【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

配当金の推移



剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、株主の皆様への安定配当を継続することを基本としつつ、将来の事業展開と財務体質の強化のために必要な内部留保の充実を勘案して配当を行うことを基本方針としております。

内部留保につきましては、企業体質の強化に向けて財務体質の充実を図りながら、経営基盤の整備・拡充等に有効活用し、競争力及び収益力の向上を図ってまいります。

なお、当社は、取締役会の決議により、会社法第454条第5号に定める剰余金の配当（中間配当）ができる旨を定款に定めておりますが、当面は定時株主総会を決定機関とした、原則1回の期末配当のみを行うことを基本方針としております。

「福岡ハカセの読書会 in 東京都大田区」大阪・関西万博イベントを開催

2025年3月2日(日)、東京都大田区の池上会館にて「福岡ハカセの読書会 in 東京都大田区」を開催しました。

当イベントは公益社団法人2025年日本国際博覧会協会と共同開催しており、福岡ハカセが文章を寄稿された絵本『ホテルの光をつなぐもの』を題材に、未来を担う子どもたちと一緒に「自然と共に生きる」、「いのちとは何か」、「生物の利他性(いのちをつなぐこと)」について考えました。福岡ハカセ、池上小学卒業生の咲希さんに絵本を朗読していただき、絵本朗読の後には、子どもたちから募集した生き物の疑問に答えるトークセッションやプロジェクトマップによるクイズ大会などが行われました。今回の読書会には、大阪・関西万博の公式キャラクター「ミャクミャク」も参加し、一層会場の熱気が高まりました。

万博の機運醸成を目指し2022年10月三重県菟野町から始まり、2023年2月北海道紋別市、同年8月熊本県大津町、2024年7月岩手県北上市に続き、5回目の開催となりました。

【後援】環境省関東地方環境事務所、東京都、大田区、大田区教育委員会

大阪・関西万博が開幕しました！(2025年4月13日～10月13日)

当社がゴールドパートナーとして協賛している福岡ハカセの「いのち動的平衡館」や様々なパビリオン、イベントなどを体験し是非会場にお越しください！

同時開催されているバーチャル万博には、当社も出展しており、これまでに開催してきた読書会の様子をご紹介します。是非皆様と一緒に、利他的な「いのち輝く未来社会」について考えてみませんか。

詳細は、当社HPをご確認ください。<https://www.j-materials.jp/>

